

湯田中温泉街 [湯田中温泉]

湯田中温泉（ゆだなかおんせん）は、650年頃に智由（ちゆう）という名の僧によって発見され、養遐齡（ようかれい）（長命長寿の湯）と名付けられた。それ以来、若さを保とうとこの温泉に人々が集まるようになった。現在も、活気のある温泉街の1つとなっており、伝統的な日本風の宿（旅館）や飲食店が多く立ち並び、国内のみならず海外の観光客も迎えている。

湯田中温泉の透明な湯には、塩化ナトリウムと硫酸ナトリウムが豊富に含まれており、どちらも切り傷や神経痛、慢性消化器病など、さまざまな疾患に効果があると言われていたほか、湯の温かさで筋肉痛を和らげる働きもある。

午後になると多くの旅館が一般に浴場を開放するため、日帰り観光客も、屋外浴場（露天風呂）を含め、屋内外のさまざまな入浴施設を試すことができる。さらに、公衆浴場である楓の湯（かえでのゆ）は、終日入浴が可能なほか、駅のすぐ目の前に足湯も設けており、観光客が疲れた足を浸けられるようになっている。

また、湯田中温泉の徒歩圏内には多様で魅力的な文化施設もある。その1つが、世界最大級の青銅立像である高さ25メートルの観音菩薩像だ。高くそびえるこの像の足元には、観音の33体の化身である三十三観音像が、関西で有名な西国観音巡礼の小型版として配置されている。